

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381049

研究課題名(和文) 中国の近代化過程における美と美育に果たしたメディアの位置づけに関する実証的研究

研究課題名(英文) An Empirical Study of Media's impact on Aesthetic Education in China's Modernization

研究代表者

楊 奕 (Yang, Yi)

同志社大学・研究開発推進機構・嘱託研究員

研究者番号：60580751

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は美による国民形成と道徳再建の可能性を、美を重んじる中国教育史を踏まえて改めて追究するところにある。

中国は清末以後の近代化に伴い、美および美育による国民道徳向上の思想とその実践があった。本研究は、20世紀初頭に「美育救国」を提出した元北京大学総長蔡元培の理論と実践にあてて、美の理念とその教育のあり方をいかに社会全体に浸透させたのかを明らかにした。一方、「美育救国」という方針の下で、当時多くの留学生が芸術を学ぶために日本にやってきた。日本で学んだ留学生たちの実態、そして彼らが帰国後の教育活動を通して、中国近代芸術教育の構築に貢献した留学生たちの姿を浮き彫りにすることができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify the possibility that the morality could be cultivated through aesthetic education. Since the Qing Dynasty, there have been theories and practice of improving national morality through aesthetic education. Because of the efforts of some intellectuals who emphasized the influence of aesthetic education, China has realized its modernization which was different from the West.

This study attempts to clarify two aspects of Chinese aesthetic education movement in the early of 20th century, namely Cai Yan-pei's activities, and the activities of students who studied art in Japanese schools. The two groups Cai set up improved the public's understanding of aesthetic education. Likewise, from 1900 to 1945, there were over 300 students learning art in different art schools. By studying their period abroad and their activities after they returned to China, we can get a better understanding of their achievement to the construction of art education in China.

研究分野：教育学、教育史

キーワード：美 美育 国民形成 道徳教育 中国近代芸術教育 東京美術学校中国人留学生 蔡元培 中国美育運動

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、これまで主に中国の近代化過程における国民国家形成の理念と思想を研究してきた。そこには、19世紀末の清末から現代に至る一世紀余りにわたる近代化の過程を、「美」と「美育」(美的なものによる国民教育)による国民形成という視点から思想的に考察してきた。

近代化を国民国家形成に視点を据えて捉えるとき、中国では、国民思想の中心に常に「美」と「美育」へのまなざしがあった。それは、清末・中国民国・現代中国という体制の違いを超えて、近代中国に一貫する思想である。美を提唱する王国維や蔡元培の思想、さらに革命以後の道德教育政策とその実態から、「美」と「美育」を中軸に据えた中国近代国家の構想は、美のイデオロギーによる国民国家を作り上げた結論づけた。

これまでの研究は主に思想および思想史研究であり、そこでは思想が中国近代の歴史のダイナミズムにいかん機能し、促進したのかという新たな課題をもたらすことになる。言い換えれば、美の思想と理念はどのような形で民衆層に浸透しかつ影響し、さらに受け入れられていったのか、それを具体的に解明する必要があると認識したのである。美は抽象的な概念であり、ある種の主観性をもって語られることが多いことから、「美」の語り方/伝え方こそが、実は「美」の本質を規定することになる。そこには、「美」を語る/伝えるメディアの視点が欠かせない。故に、本研究は、これまでの「美」と「美育」の思想史研究を踏まえつつ、新たに社会史的視点を取り入れながら、「美」を伝えるメディアのあり方を分析することによって、「美」を基軸にした近代国家像が、いかに民衆に受け入れられてきたのかを明らかにするとともに、現代中国が模索している道德教育のあるべき姿を探っていきたい。

2. 研究の目的

80年代以後の中国の高度経済発展は、あらゆる側面において、社会全体を大きく変えた。国民の生活水準が豊かになった一方、道德低下問題の深刻化が様々な現実を通して、人々の注目を集めた。今までの道德教育に対する反省から、これからの社会の急速な変化に対応できる道德教育の新たな可能性が求められるようになった。

中国は清末以後の近代化に伴い、「美」および「美育」における国民教育を形成する思想とその実践があった。「美」を重んじる中国知識人たちの言説とその活動を踏まえて、本研究の目的は、今日の緊急の課題に応えつつ、「美」による国民形成と道德再建の可能性を改めて追究するところにある。

「美」は主観的な要素がつよく、語り方とその伝え方が決定的な意味をもつ。それ故に、「美」を語る/伝えるメディアの機能を主題化する必要がある。そのため、中国の研究者と教育メディアを専門とする日本の研究者の協力を得て、「美」と「美育」をメディアの視点で捉えることで、現代中国の国民道德教育を実践方向づける可能性を探る。

3. 研究の方法

本研究は1910年代から30年代にかけての中国と日本の両方で「美」と「美育」を推進した知識人と芸術留学生たちの言説と実践を中心に、文献研究と現地調査に基づいてその成果を解明した。

具体的には、「美育救国」を提唱した蔡元培の教育活動を中心に、民国教育総長と北京大学総長就任期間中に、「美」と「美育」に言及する彼の著書・論文・演説・講演・評論を『美学文選』(1983)、『蔡元培全集』(1983)、『蔡元培美育論集』(1998)、『北京大学日刊』(1917から1932まで)を中心に考察を行った。

在日芸術留学生については、東京美術学校に在籍していた留学生たちの活動に焦点を

あてて、メディアを通しての彼らの発信を明かにした。そのため、東京美術学校の留学生の在学状況・年限・専攻・作品を『東京美術学校一覧』、『東京美術学校校友会月報』、『東京美術学校作品集』に基づいて詳細に整理し、一覧表を作成した。また、当時芸術留学生に関する新聞記事、評論、または留学生自らが雑誌に投稿した回想録をも収集した。留学生たちの帰国後の活動について、中国の近代芸術教育に大きく貢献した李叔同、陳抱一、江新、司徒慧敏、胡根天、丁衍庸、許幸之、陳之佛の、「美」と「美育」に関する彼らの著書、研究論文、雑文、講演を収集して、一次資料として整理した。

さらに、元留学生の司徒慧敏、陳之佛両氏の家族にインタビューして、日本で勉強したときの貴重な資料を入手した。その資料から当時の彼らの生活状況、勉学状況、そして人間関係を知ることができた。その録音テープも整理した。

4. 研究成果

三年間にわたって行われた本研究は、当初の研究目的に照らして、以下の三つの成果が得られたと思われる。

その一つは、「美」と「美育」による国民道徳が再建できると再認識した。「美」と道徳の関係は、中国思想史の中で語り継がれた重要な問題の一つである。清末以後の近代化において、美および美育による国民道徳の形成も伝統的な中国思想に基づき、その特質を継承しながら語られてきた。近代化は国民道徳の再建であり、それを「美」と「美育」の推進によるという確信を、蔡元培の記述にしても、日本に留学した芸術留学生の論説にしても共通しているように思われる。

その二つは、「美」と「美育」の推進におけるメディアの役割を明らかにした。伝統的な「美」の研究方法では、想像の旧習が強く、科学性が欠けているため、近代化を達成できないことを知識人たちは理解していた。その

ため、近代的な「美」の研究方法を取り入れて、科学的分析方法を用いて、民衆を育成しなければならない。そのため、大学内の新聞や教育雑誌、芸術活動の開催などメディアを活用し、大学をはじめ、民衆への美育普及につながった。つまり、メディアを取り入れたことで、人々の美に対する理解を促したのである。

その三つは、中国近代美育運動において、日本は大きくかかわったことも明確になった。それは、主に留学生たちの活動によって実現された。留学生たちは帰国後、芸術に関する日本学者の著書、論文を多く翻訳し、日本で学んだことを実践の教学に導入することで、中国近代美育の確立を大きく促進した。それは留学生たちの著作、翻訳書、論文、評論から確認できた。

先行研究に依拠しながら今まで発掘できなかった膨大な資料を整理することができた。また、関連資料の中国語の翻訳も完成した。それにより、美術学校の留学生に関する資料集をほぼ作成し、2018年度中国での出版を予定している。今後、東京音楽学校の資料調査にも力を注いで進めていきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

楊奕：「中国近代における美育運動の展開に関する実証的研究 - 1910年代から1930年代までの蔡元培の教育実践を中心に」『評論・社会科学』第120号、1-19頁、2017年。査読なし。

楊奕：How Arts Education Can Contribute to the Globalization of High Education in China, HYOKON SHAKAIKAGAKU, No.113, pp.133-144, 2015.

楊奕：「明治期における美の受容と美的教育の理解 - 西周の美妙説と伊澤修二の音楽教育」『教育文化』第24号、37-47頁、2015年。査読なし。

〔学会発表〕(計 6 件)

Yang, Yi: "Cultivating Students' Core Competencies through Arts Education - A

Case Study of Visual Arts in a Chinese Primary Schools ” , APHERP Research Cluster , March 2, 2017, Doshisha University (Kyoto Prefecture, Kyoto City).

楊奕 : 「日本近代学校教育における芸術教育と国民形成の関係」、2016 World Arts Education Summit、2016年12月4日、Hangzhou (China).

楊奕 : 「東京芸術学校で学んだ中国人留学生の史料調査」、第5回世界華人美術教育大会、2015年11月16日、中国上海華東師範大学、上海(中国)。

楊奕 : 「近代中国における美育運動の展開に関する実証的研究 - 1910年代から1920年代までの蔡元培の教育実践を中心に - 」、日本教育学会第74回大会、2015年8月30日、お茶の水女子大学(東京都・東京)。

Yang, Yi: “ The Policy and Practice of Arts Education in Chinese Higher Education”, Yang, Yi, InSEA, Euripean Regional Congress, in Lisbon, July 8, 2015, Lisbon(Portugal)

楊奕 : 「中国における生命教育の研究動向 香港教育大学を例に」、「いのち」の尊厳を考える研究談話会、2014年6月14日、長崎国際大学(長崎県・長崎市)。

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

取得状況(計 件)

名称 :
発明者 : 権利者 :
種類 :
番号 :
取得年月日 :
国内外の別 :

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

楊 奕 (Yang, Yi)

同志社大学・研究開発推進機構・嘱託研究員

研究者番号 : 60580751

(2) 研究分担者

()

研究者番号 :

(3) 連携研究者

()

研究者番号 :

(4) 研究協力者

辻本 雅史 (TSUJIMOTO, Masashi)

勞 凱声 (Lao, Kai-sheng)

樊 秀麗 (Fan, Xiu-li)